



2019年1月7日「奥浅草だより」第18号
吉原400年の歩み

吉原とは 東京の台東区にある吉原遊郭跡地のことです。静岡県吉原ではありません。いまでも長方形の道路割がくっきりと残っています。この吉原地区は、中央区人形町にあった遊郭が移転したものです。元の吉原は遊郭として1618年に開業しましたが、江戸の発展をかんがみて中央から遠ざけ広い敷地を求めて1657年に浅草の田んぼの中に引っ越して開業しました。これを新吉原、と言い、人形町を元吉原、として区別しました。元吉原は僅か40年の寿命でしたが、公許遊郭の原型がつくられたという意味で注目に値します。

主役は妓楼の経営者たち お上との契約は、妓楼の経営者に全権を任せ、監督の町奉行所に売上の1割を支払うというもので、記録によると何と1936年までは続いています。江戸では私娼を禁じ、遊女は前借金を返すまで遊郭外に出る事は禁止。これも何と1945年まで続きました。新吉原の地割は周囲にたいしてナナメになっているので地図ですぐわかりますが、これは北枕を嫌ったからだと言われています。新吉原の広さは元吉原の5割増。周囲に堀をめぐらし大門（おおもん）だけが主な出入り口でした。

新吉原の隆盛 新吉原は田んぼの中の不夜城のように栄えました。江戸に出てくる若者や参勤交代の武士が多かったからです。遊郭はいまの台東区千束4・3丁目にあたり、東京ドーム約2個分。最盛期には1万人がいたそうです。明治時代も基本は変わらず、世界の公娼廃止運動の中、日本では公娼制度を府県別に強化しました。それが完全に撤廃されたのが1945年の敗戦で、1956年の売春防止法施行に至ります。

吉原のいま ところがその間の1948年に風俗営業法が施行され、いまのソープランドの基礎ができました。現在、千束には150軒ほどのソープの店がありますが、建物が廃るまでは営業を続けられるのでこの地域は、許可された午前零時までネオンが輝いています。いまは、ソープランドの外にデリバリヘルスなどが増えています。吉原ソープランドはなお、日本一の規模です。売買春は、南北アメリカやヨーロッパでは自由な国が多いですが、アジアでは日本を含め規制のある国が多いようです。

この「奥浅草だより」は『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の発行後話題を拾って不定期に発行しております。

サノックスのホームページでもご覧いただけます。

<http://www.sanox.co.jp>

佐野陽子・江原晴郎・森下恒子：